

鳥インフル

# 高病原性ウイルス検出

## 明和町で死んでいたオオタカ

県は二十日、明和町内で死んでいたオオタカから、

毒性の強い「H5N6亜型」の高病原性鳥インフル

エンザウイルスが検出されたと発表した。高病原性の鳥インフルエンザが県内で確認されるのは、紀宝町と南伊勢町の養鶏所で約三十万羽が殺処分された平成二十三年以来。全国では今シーズンに入って十五道県目となる。

県によると、このオオタカは今年十四日朝、車庫の屋根で死んでいるのが見つかり、県の簡易検査で鳥インフルエンザの陽性反応が出た。県は鳥取大に検体を送り、高病原性かどうかの調査を依頼。二十日に環境省を通じて高病原性との連絡を受けた。

園など約二百九十施設に対し、高病原性の鳥インフルエンザが確認されたことを通知。いずれの施設にも異常はないという。このオオタカが見つかったから県内で十二羽の死んだ野鳥が見つかったが、いずれも簡易検査の結果は陰性だった。

県は県内の養鶏所や動物園など約二百九十施設に対し、高病原性の鳥インフルエンザが確認されたことを通知。いずれの施設にも異常はないという。このオオタカが見つかったから県内で十二羽の死んだ野鳥が見つかったが、いずれも簡易検査の結果は陰性だった。

県は鳥の排泄物などに触れた場合に手洗いやうがい徹底するよう呼び掛けている。「鳥インフルエンザは特殊な場合を除いて通常では人に感染しないと考えられており、日常生活では過度に心配をする必要はない。冷静な対応をしてほしい」としている。



鈴木知事＝県庁で鳥インフルへの対応について記者会見で語り下がる

鈴木英敬知事は二十日の

ぶら下がり会見で「大変残りのパトロールなどを実施した場合には、触れずに近く年ではあるが、簡易検査がされており、対応を継続したの農林水産事務所に連絡し陽性だった時点で警戒区域い。死亡した野鳥を発見してほしい」と述べた。